令和５年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　　【松江市立 義務教育学校　八束学園前期 】

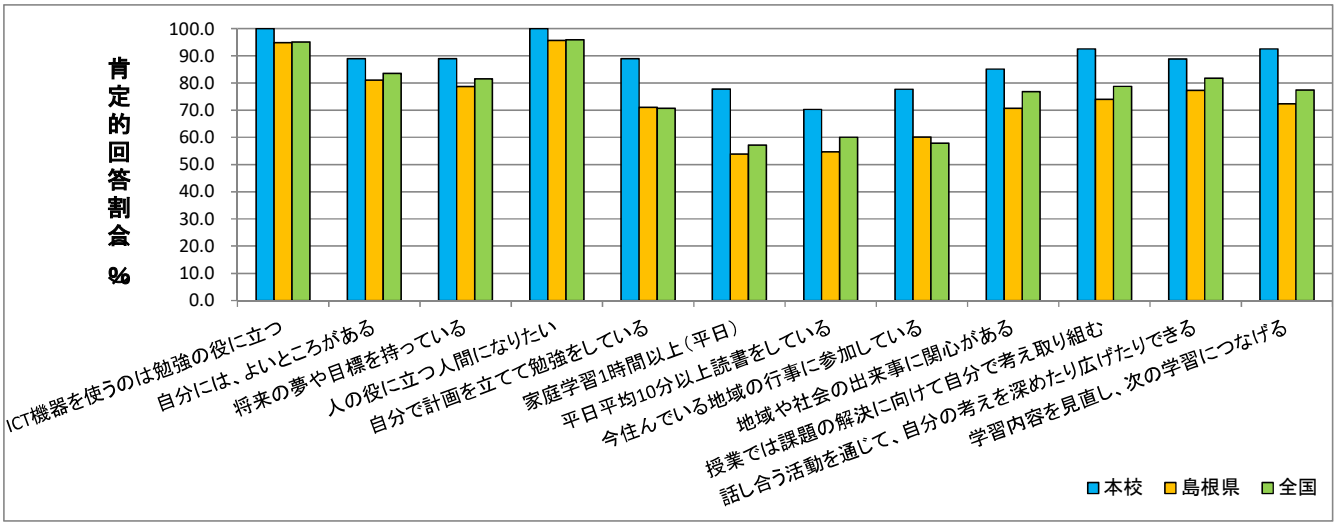
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(〇:成果, ●:課題)	対　策(・)
国語	〇全国の平均正答率と同じ程度の正答率であることから、基礎学力が定着していることが確認できる。 〇条件付き作文問題でも無回答率が少ない。 ●条件が多い条件付き作文問題においては、すべての条件を満たす作文が書けない児童が多い。	・問題用紙に書き込みをしたり、条件に〇や印をつけたりして、解く際の条件についてチェックできるようにする等の機会を増やす。 ・問題用紙への書き込みが多いと、見直しの際にも役立てることができるので、積極的に考えた跡や理由を残していく練習をする。
算数	〇基礎学力の定着が図られている。 〇無回答が少ない。(学級人数に対して0.4%) ●記述式の回答に課題あり。(文章を書くことに加えて、言葉の意味、必要な情報の選択等) ●得点分布が二極化(正答数9割と6割)しており、中間層(正答数7～8割)が少ない。 (全体の割合でみると6割正答していても下位層に入る。)	・友達に説明する活動を多く取り入れることで、根拠をもとに説明する力(記述)を身に付けさせたい。 ・授業の導入で既習事項を確認する時間を設け、どの子も主体的に取り組めるようにする。 ・(書くことについて)用語(例:正方形って何？偶数って何？)の説明を具体ではなく、少しずつ一般化して説明できるようにする。 ・題意から必要な情報を正しく選択できるように、情報過多、条件不足の問題演習に取り組む。

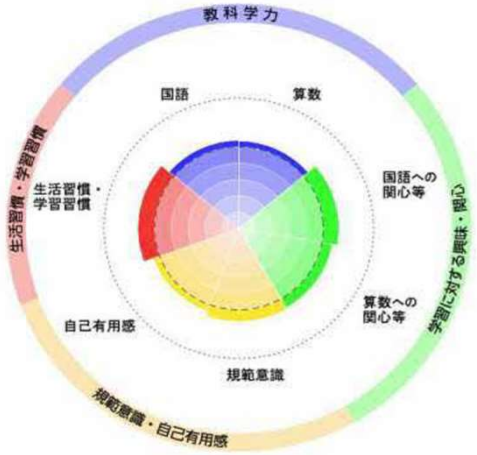
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(〇:成果, ●:課題)	対　策(・)
質問紙	〇家庭学習の習慣が身に付いている。 ●塾で学習したり家庭教師から教わったりする人が少なく、自分で計画して学習している人が多い。そのため、応用的な課題に日ごろから取り組んでいけるかが課題。	・難易度の高い課題に挑戦できる機会をつくることで、自ら高い目標を設定できるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

◎話す・書く活動を通して全学年で伝える力(説明する力、考察する力等)を育てていく。
◎朝の時間に音読に取り組むことで、読む力を育てる。
◎学校図書館を利用した学習や読書活動を充実させる。

【受検者数】
27 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。